様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年６月１１日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2007～2009
課題番号：19720051
研究課題名（和文）新出孝養説話集の研究

研究課題名（英文）A Study of a Newly Found Buddhist Narrative Collection: Stories of Devoted Children who Suffered from Loss of Parents

研究代表者
箕浦　尚美（MINOURA NAOMI）
大谷大学・文学部・助教
研究者番号：70449362

研究成果の概要（和文）：
金剛寺所蔵の新出仏教説話集〈佚名孝養説話集〉に関する研究を行った。所収説話は、本生経（ジャータカ）と似てはいるが、日本で撰述されたと考えられる。『法華経』や『金光明経』に収められる長編の菩薩の前世物語の影響を受けていることを論じ、特に、説話と偽経生成の関係を考察した。研究成果の報告は、『説話文学研究』、ICANAS38 などで行った。また、平安期の菩薩行に対する一概念を示す『百願修持観』（金剛寺蔵新出文献）に関する研究、及び、デジタル顕微鏡による料紙の比較分析を行った。

研究成果の概要（英文）：
This research project has focused on a Buddhist narrative collection, which was newly found in Kongō-ji Collection of Sacred Texts, of stories of devoted children who lost their parents. Though these stories share some similar features with Indian Jātaka Tales, they are considered to be composed in Japan. With a special reference to the relationship between the composition of Buddhist narrative stories and generation of Buddhist apocrypha in Japan, my research clarified that this collection was accomplished under the influences of the *Lotus Sutra* and the *Golden Light Sutra*, in which stories of Bodhisattvas' religious practices in their past lifetimes were narrated in a full length. The results of this research were presented as papers in *Setsuwa-bungaku kenkyū*, as well as at ICANAS38, among others. At the same time, I developed a study of a different Japanese Buddhist work found in the same collection in Kongō-ji, Hyakugan Shūjikan, an important work that shows the concept of Bodhisattva's practices in Heian period. I also used the digital microscope to make a comparative analysis of the paper on which some Buddhist works in Kongō-ji collection were written.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,000,000	0	1,000,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,100,000	330,000	2,430,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：中世文学・仏教説話・金剛寺・偽経・本生譚・本地物

１．研究開始当初の背景

本研究は、大阪府河内長野市の真言宗の古刹天野山金剛寺に蔵される新出の仏教説話集に関するものである。

（１）〈佚名孝養説話集〉の概要

金剛寺所蔵の本書は、題名不詳の説話集の抄出本12丁で、原本巻一～三のうちの8話が抜き書きされている。冒頭は欠落しているが、各巻頭の目録に依って補うと、計10話の題名を知ることができる。末尾には白紙部分があり、抄出本としては完結していると考えられる。例えば以下のような話が記されている。

> 波羅奈国の好花という女子は、三歳の時に父を亡くして母と共に暮らすが、七歳の時に食料が尽きて母と共に北方の山へ向かう。途中の大河を渡る時、母は毒魚に呑まれて命を落とす。好花女は悲泣する。吉祥功徳海如来が現れて十二因縁を説き、好花女は菩薩道を行うことを誓う。命を終えた後、北方の天の宮殿に生まれる。その時の父は浄飯王、母は摩耶夫人、好花女は吉祥天、大河の毒魚は調達であった。（巻一第四話　好花女遅母謁悲伝〈吉祥天本縁・集功徳本記経説〉）

所収説話は、いずれも天竺を舞台とし、幼くして親を亡くした子供が、残された家族とともに苦労をしながら生きていくという型の話であり、釈迦や仏弟子等の前世の話として結ばれている。全話に、出典として経典名が記されているが、印度・中国撰述の経典にその出典を見出すことはできなかった。一部の話については、静嘉堂文庫蔵『孝行集』、『私聚百因縁集』などに収められているが、同じ構成の本は他に知られていない。

釈迦やその家族の前世の物語は、本生経、生経などと呼ばれ、『六度集経』『撰集百縁経』『賢愚経』などの経典の他、『経律異相』『法苑珠林』などの仏教類書にも数多く収録されている。日本においても、『今昔物語集』『注好選』『三宝絵』などの説話集に見られ、更に、近年は、真福寺・金沢文庫など各地の寺院や文庫に蔵される中世唱導文献の例も紹介されている。

本書も唱導文献における一例であるが、他と比較して特に興味深いのは、全話に出典として経典名が示されている点、しかもそれが経典には確認できないという点である。果たして、これらの説話は本当に経典として存在したのだろうか。散逸経典と考えた場合、真経（印度撰述漢訳経典）なのか疑偽経典（中国・日本撰述経典）なのか、後者だとすればいつどこで作られたのかが問題となる。

なお、本書には題名がないため、研究を開始するにあたって、〈佚名孝養説話集〉と名付け、書写時期を12世紀末と考えた。研究を進めた結果、書写はやや下ると考えるようになったが、説話内容に関しては古体を保っているという考えは変わらない。

（２）「往生仏土経」との関わりから

本科研費の補助を受ける前年度（2006年度）に、科学研究費補助金基盤研究（A）「金剛寺一切経の総合的研究と金剛寺聖教の基礎的研究」（代表者：落合俊典、平成16～18年度）の研究報告書において、「金剛寺蔵〈佚名孝養説話集抄〉について」という題名で本書の概要を紹介した。その際、巻三第五話の「早離速離二人恋父伝」を取り上げて、「往生仏土経」なる経典とのかかわりを論じた。

本話は、後にお伽草子『月日の本地』にも展開する話で、典拠が『観世音菩薩往生浄土本縁経』という偽経である事、諸書に引用されていることが夙に知られている（岡見正雄「説教と説話―建保四年写明尊草案集中の一説話の釈文―」（『国語国文』26-8、1957年8月））。『月日の本地』は経典から大きく変化しているが、『観世音菩薩往生浄土本縁経』に近い形として、静嘉堂文庫蔵『孝行集』、『法華経直談鈔』、『直談因縁集』などがあり、内容の比較検討が可能である。しかし、実際に検討すると、〈佚名孝養説話集〉に収められる話は、これらと大枠では同じであるものの、別の系統と考えられる。本文にも「往生仏土経説」と記されている。本書と明らかに同系統であるのは、真福寺蔵の真源『往生要集裏書』（牧野和夫「七寺蔵『大乗毘沙門功徳経』と「因縁・説話」」（『七寺古逸経典研究叢書』四、1999年）に紹介。）のみであり、他に同系統である可能性が高いのは、『宝物集』における簡略な抄録である。後代

には『観世音菩薩往生浄土本縁経』の系統が大いに流布するが、本書ではそれとはやや異なった系統として存在し、しかも、それが平安期の著述である真源『往生要集裏書』（書写は鎌倉期）や『宝物集』に共通することから、説話文学研究や偽経研究の点で本書の重要性が認められると判断した。

（３）金剛寺調査に関して

金剛寺には、説話文学研究に欠かせない貴重な文献が多数ある。本研究を開始した2007年度までには、科研費による下記の悉皆調査が行われており、箕浦は研究協力者として参加していた。

・2000-2002年度　基盤研究（A）「金剛寺一切経の基礎的研究と新出仏典の研究」（研究代表者　落合俊典）
・2003-2006年度　基盤研究（A）「金剛寺一切経の総合的研究と金剛寺聖教の基礎的研究」（研究代表者　落合俊典）
・2007年度-　基盤研究（B）「真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究―金剛寺本を中心に―」（研究代表者　後藤昭雄）

また、2005年度からは、国際仏教学大学院大学学術フロンティア「奈良平安古写経研究拠点の形成」の研究員（PD）として、金剛寺所蔵の一切経や聖教の調査・撮影・研究に携わるようになった。

本書は、金剛寺の悉皆調査の過程で見いだされた文献である。現在に至るまで、引き続き悉皆調査に携っている。

２．研究の目的

新出資料である本書の研究の最大の目的は、正確に読み解き、価値を見定め、文学史に正しく位置づけることである。冒頭が欠落して奥書もない零本ではあるが、以下に示すような中世唱導文献全般にかかわる問題を立ち上げる資料である。それらの問題を検討すると同時に、本書自体の価値を見定めていく。当初、12 世紀末頃の書写と考えて研究に着手したが、書写時期をその時期に断定することは難しいと考えたため、内容面からの時代認定も目的に加えた。

（１）偽経と説話

本書所収の説話は、各々に、「十二遊経」「往生仏土経」などの出典が付されている。しかし、現実にはその出典は当たっていない。これらは恐らく仮託の経典である。釈迦や仏弟子の前世の話として仏典に近い形で構成されており、仏典の影響を受けながらも仏典には記されない物語と考えられる。出典研究として、示された経典名による説話伝播経路の解明を目指すと共に、物語を経典の説として仮託することの意味も問いたい。例えば、中国に仏教が伝来した時、中国の人々は、それを中国の儒教思想に即した形に変えて受容しようとした（道端良秀『中国仏教思想史の研究―中国民衆の仏教受容』（平楽寺書店、1979年））が、同じように、日本においても異国の仏教を受け入れる際には、自国の、その時々の、精神風土に合った形で受容する方法を模索したと考えられる。本書もそのような模索の結果の一つと考えられる。この点を意識した上で、仏典との違いを分析し、当時の人々の要請を明らかにしたい。

（２）天竺説話による孝養集

孝養（もしくは孝行）という視点で本書を考えると、天竺の話のみの集成は珍しいと思われる。本書所収説話の同話を三話収める静嘉堂文庫蔵『孝行集』は、天竺・震旦・本朝の三国の孝行譚を収めているが、一般に、孝行説話としては、『二十四孝』などの中国の孝行説話の方がはるかに多く知られ、その研究も進展している（黒田彰『孝子伝の研究』思文閣出版、2001年など）。

天竺の孝養説話は、釈迦や仏弟子の前世の話として仏典に近い形で構成されている。追善供養も描きはするが、主に別離の場面や没後の生活の苦難を描く物語は、現世の孝行を主とする『二十四孝』とは異なる。それらとは違う形で亡親の供養や親子の情愛を描く物語を集成した意味と、その時代を考える必要がある。類話との比較検討によって、それが解明されると考える。

（３）本地物の淵源として

本書は、天竺を舞台とした孝養説話の集成であり、各物語の末尾は釈迦や仏弟子の前生譚として結ばれている。このような形は、お伽草子の主要テーマである本地物（神仏の加護を受けて生まれた子が困難を乗り越え、神仏に転生する話型）の源と言え、お伽草子の研究にも寄与するものと考えられる。苦難を経て転生して神仏になる本地物の物語は、本書所のような形の説話を理解してこそ、深く分析できるものと考える。前生譚としての孝養説話集成の意味を、お伽草子の根幹に関わるものとして解明する。

３．研究の方法

（１）〈佚名孝養説話集〉の基礎的研究

①原本の書誌学的調査・撮影。
②本文読解。翻刻・訓読・現代語訳・訳注の作成。
③用字・訓法・文体の検討。

④料紙の科学的（非破壊）調査。

（２）金剛寺所蔵関連文献の調査研究
①金剛寺における関連文献の原本調査。
②国際仏教学大学院大学所蔵の金剛寺聖教デジタル画像データの閲覧調査。
③国際仏教学大学院大学学術フロンティア研究員の業務として、及び、後藤昭雄科研費「真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究―金剛寺本を中心に―」の研究協力者として、金剛寺一切経・聖教の悉皆調査に参加。

（３）金剛寺蔵本以外の関連文献の調査研究
①金沢文庫の聖教マイクロフィルム閲覧調査。
②〈佚名孝養説話集〉と同内容の説話を所収する静嘉堂文庫蔵『孝行集』の原本調査。
③『往生要集裏書』、『私聚百因縁集』、『法華経直談鈔』、『直談因縁集』などに見られる関連説話の検討(影印本･活字本など利用)。

（４）仏典における本生譚との比較

（５）孝行説話との比較

（６）お伽草子における本地物との比較

（７）研究成果の公表

４．研究成果
金剛寺所蔵の新出仏教説話集〈佚名孝養説話集〉の研究を中心に行い、金剛寺の関連資料の研究をその補助研究として行った。

（１）〈佚名孝養説話集〉の研究
本書の所収説話はすべて親を亡くした子供達の悲話で、父母の愛情、死別のつらさ、その後の生活の苦しみ、神仏の助け、追善供養（衣を作る、塔を建てる、供え物をする、経を読む)、死に臨んでの誓願などから成る説話が、いずれも釈迦とその家族や弟子の前世の物語として描かれている。以下の11話を確認することができる。但し、見出しのみで本文を伴わないものを含む。
・（末尾のみ現存。本文中に、「往生仏土経」の経名あり。）
・巻一第四話：好花女遅母謁悲伝〈吉祥天本縁　集功徳本記経説〉
・巻一第七話：要婆忍婆二人遅母伝〈十二遊経説〉
・巻一第八話：金珠孝子尋父伝〈釈迦縁修作破壊精舎因縁　往生仏土経説〉
・巻二第一話：教歎孝子遅父母伝（目録のみ、本文なし）
・巻二第二話：常利孝子□父母恋（目録のみ、本文なし）
・巻二第三話：自然童子遅母伝（目録のみ、本文なし）
・巻二第四話：花天宝蓋遅父母伝〈信順決義□宿経説〉
・巻二第五話：長尊長善恋父母伝　〈起□成仏経説〉（本文後半省略）
・巻三第五話：早離速離二人恋父伝〈観音勢至本縁也　往生仏土経説〉
・巻三第六話：教体遅父母伝〈悔罪生天経説〉
主に、以下の①から④の点を論じ、⑤の報告を行った。

①書写年代・成立年代
当初、12世紀末頃の書写と考えたが、幾分下るか。指標となる仮名は、比較的古い時期の形を留めているが、踊り字は、13世紀頃の書き方とされる字体である。料紙は、漉きむらによる穴のある紙であり、後代にわざと古めかした書体で書いたのではなく、実際にその文字を用いていた時期の書写と思われる。
各説話の内容を他書での例と比較検討した結果、『孝行集』や『法華経直談鈔』と比べてより原典に近いこと、その近さの度合いは、平安～鎌倉期の『往生要集裏書』『讃仏乗鈔』『私聚百因縁集』などと同程度であることが判明した。
比較できる話は多くはないが、時代が下る程に、豊かな語りを伴う中世の語り口に変化すると言える。本書は、経典に比較的近い内容であることから、各説話の初期の姿を留めていると考えられる。他出の最古例は、真源『往生要集裏書』で、12 世紀前半には存在していたと考えられる文献である。

②日本における偽経の問題
本書の説話は、出典経典名が示されるにも関わらず、印度・中国撰述経典とは一致しない。そこで、類型的な表現の多用や漢訳経典の表現の借用を検討した結果、各説話は編纂前に別々に存在したのではなく、比較的近い立場の者によって作成された可能性が高いと結論するに至った。頻繁に用いられている「摩頂悲涙満眼」は、仏教用語である「摩頂」を日本的な文脈に転用したものと考えられる。また、『大乗毘沙門功徳経』『観世音菩薩往生浄土本縁経』など、日本で平安期に撰述されたと考えられる経典との共通点が、表現面・思想面ともに見られることから、本書は、日本における偽経の作成と享受、偽経と説話との関係の一端を解明する作品と言える。

③大乗仏典の菩薩物語の影響
本書所収の説話は、初期仏教における本生経（jātaka）と同様の構成の短編物語であるが、主人公の苦難をテーマとして誓願を立てて（説話によっては捨身して）転生するという内容は、『法華経』『金光明経』『悲華経』などの大乗仏典において菩薩の過酷な捨身的行為が強調される長編の過去の因縁物語（pūrvayoga）の影響があると考えられる。
所収説話に直接関連する現存の経典は、偽経『観世音菩薩往生浄土本縁経』のみである。父母の死と生活の苦しみを乗り越えて衆生を救う菩薩行の物語である点は、同じく平安期の偽経である『大乗毘沙門功徳経』にも共通する。
お伽草子などの「本地物」の前段階には、本書所収説話のような、初期仏教のジャータカとはやや異なる形の本生譚の存在を考える必要があると思われる。

④孝養
本書の仮題に、「孝養説話」という語句を用いたのは、亡親の追善供養に向けた説話集と捉えたことによる。中国の孝子譚のような親の在世中の孝行はほとんど記されておらず、所収説話の多くは、主人公が幼いうちに親が亡くなっており、親から受けた恩愛に対していかに報いて生きていくかが描かれている。『法華経直談鈔』や『孝行集』に収められた同話では、子から親への個人的、直接的な孝行（在世時の孝行や法会などの供養）の話として記されている。本書は、前生譚として作られた物語が孝行説話へ変容していく前の、比較的初期の姿を留めるものとして位置づけられると考える。

⑤報告
以上の成果について、具体的考察の内容を『説話文学研究』44に、翻刻を『伝承文学研究』58に発表した。徳田和夫編『お伽草子百花繚乱』においては、お伽草子本地物の淵源として、本書を示した。また、ICANAS38（第38回国際アジア・北アフリカ研究会議）においては、特に、日本における偽経の問題として提示した。
なお、本書で出典とされた経典が、完全な経典として存在したかという問題については疑問が残る。平安期の偽経については、仏教学においてもまだ十分には明らかにされておらず、経典とも説話ともつかない形の類話が量産されていた可能性も考えられる。しかし、その内容については、上述のように、大乗仏典の菩薩観に基づくものであることを確認し得た。

（２）金剛寺所蔵平安後期写『百願修持観』の研究
金剛寺蔵平安後期写『百願修持観』は、他に伝本の知られない作品で、経典に記される菩薩の誓願に倣って115の願を列挙したものであるが、単なる誓願の集成ではなく、菩薩行や誓願に対する当時の一理念が示されているものと考えられる。〈佚名孝養説話集〉における菩薩行、誓願、転生のあり方にも通じる部分がある。研究報告は、仏教文献与文学国際学術研討会（2008年、南華大学（台湾））で行った。

（３）料紙の科学的調査研究（非破壊調査）
本件は、研究開始当初に予定していたことではなかったが、2008年に、国際仏教学大学院大学学術フロンティア「奈良平安古写経研究の拠点形成」のプロジェクトにおいて、龍谷大学古典籍デジタルアーカイブセンターに、金剛寺所蔵文献の料紙の非破壊調査を依頼する機会があり、本書を含む12点の調査を行った。調査内容は、デジタル顕微鏡による料紙の観察、紙厚の測定、透過光撮影と周波数解析による簀の目と紗の目の計測、蛍光X線分析装置による元素分析、赤外線撮影などである。本書に関しては、紙厚は約0.08ミリ、簀の目は1センチあたり5.7本、楮の他に補助原料として稲藁らしき繊維が用いられていることなどを観察した。調査の概要は、国際仏教学大学院大学学術フロンティア広報誌『いとくら』４号（2008年）に掲載され、また、日本文化財科学会第26回大会（2009年）においてポスター発表を行った（代表：坂本昭二）。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計７件）
①<u>箕浦尚美</u>、偽経と説話―金剛寺蔵佚名孝養説話集をめぐって―、説話文学研究、査読有、44 号、2009 年、82-92 頁

②<u>箕浦尚美</u>、金剛寺蔵〈佚名孝養説話集抄〉翻刻、伝承文学研究、査読無、58 号、2009 年、48-54 頁

③<u>箕浦尚美</u>、金剛寺蔵長寛三年写『観無量寿経』諸本校異、日本古写経善本叢刊、査読無、3 輯、2008 年、105-126 頁

④箕浦尚美、『観無量寿経』の本文―「称南無無量寿仏」を含む伝本をめぐって―、日本古写経善本叢刊、査読無、3 輯、2008 年、343-352 頁

⑤箕浦尚美、金剛寺蔵『百願修持観』影印・訓読文・略解題、真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究―金剛寺本を中心に―（科研費研究成果中間報告書・研究代表者後藤昭雄)、査読無、、2009 年、31-47 頁

⑥Naomi MINOURA, A Newly Found Narrative Collection of Buddhist Stories Compiled during the 12th Century in Japan
The Paper Book of the ICANAS38（仮題）, 査読無,提出済・未刊

⑦箕浦尚美（池麗梅　訳)、『百願修持観』之誓願観、仏教文献与文学（仏教文献与文学国際学術研討会論文集・南華大学文学系)、査読無、提出済・未刊

〔学会発表〕（計５件）
①坂本昭二・江南和幸・岡田至弘・箕浦尚美・落合俊典・赤尾栄慶、天野山金剛寺所蔵古写本料紙の科学分析、日本文化財科学会第 26 回大会、2009 年 7 月 11 日、 名古屋大学

②箕浦尚美、『百願修持観』における願の理解について、仏教文献与文学国際学術研討会、2008 年 10 月 24 日、南華大学（台湾）

③箕浦尚美、偽経と説話―金剛寺蔵佚名孝養説話集をめぐって―、説話文学会平成 20 年度大会、2008 年 6 月 29 日、熊本大学

④Naomi MINOURA, A Newly Found Narrative Collection of Buddhist Stories Compiled during the 12th Century in Japan, International Congress of Asian and North African Studies38 （ICANAS38, 第 38 回国際アジア・北アフリカ研究会議）, 2007 年 9 月 10 日, The Bilkent Hotel and Conference Center（トルコ）

⑤箕浦尚美、金剛寺蔵佚名説話集に引用された経典の考察、国際仏教学大学院大学学術フロンティア平成 19 年度第 3 回公開研究会、2007 年 11 月 17 日、国際仏教学大学院大学

〔図書〕（計１件）
①徳田和夫編、箕浦尚美（全 34 名共著)、笠間書院、お伽草子百花繚乱、2008 年、全 682 頁（380-392 頁「談義唱導とお伽草子」を執筆。）

６．研究組織

(1)研究代表者
　箕浦　尚美（MINOURA NAOMI）
大谷大学・文学部・助教
　研究者番号：７０４４９３６２